

一般教育科

1. 教育目標

21世紀を迎えた現代は、過去のどの時代にも見られないほど科学・技術が発達し、また国際化が進んできた。それに比して、人間性はむしろ希薄となり、個人の能力を超えて発達していく科学・技術によって従来の価値観が変えられ、その急激な変化にとまどいを感じている人も少なくない。教育現場では対人関係やアイデンティティの問題にうまく適応できない学生をはじめ、新たに様々な問題が生じているのが現状である。

いかに科学・技術が発達しても、人間そのものが優れた識見と豊かな人間性を備えていなければ、科学・技術を正しく用いることができないということは、過去の歴史が明確に示しているところである。ところが、今日の社会では、すべての分野で細分化と専門化が進行しており、その結果、学校教育もまた細分化、専門化がなされている。このような時代にこそ、全人教育という側面が、学校教育において必要とされるのではないかと我々は考えている。

そうした点から、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成（学校教育法第70条の2）」する専門教科とあいまって、豊かな人間性と優れた識見を備えた学生を育成することが、本校における一般教育科に課せられた責務であると捉えている。本校の使命の一部にある「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」のための一翼を担うことこそ、一般教育科の目指す目標なのである。

高等専門学校は、中学校を卒業した若い15歳の学生を受け入れた後、僅か5年間で社会人として必要な一般教養を習得させ、専門の学芸と職業に必要な能力を身につけた技術者として実社会へ送り出さなければならない。高校卒業の学生を受け入れる大学等に比して、高等専門学校の一般教育科の任務は重大である。

2. 授業内容

本校の一般科目では、人間教育、人格形成を重視し、志操高く、視野広い人間を育成するために国語、歴史、哲学、倫理・社会、政治・経済、法学、地理の人文社会科学系の科目、健全な心身を形成するために体育科目、豊かな情操を育てるために美術、音楽、書道の芸術科目、さらに、専門教育につながる基礎学力の向上を図るものとして、数学、物理、化学の理数系科目が課されている。更に、ますます国際化していく社会に適応できる人間を育成するために、英語などの外国語も重要科目と位置づけている。また、数学においてはよりきめの細かい指導を実現するために、習熟度別授業を導入している。これにより、従来不足しがちであった演習を積極的に取り入れた授業が可能となっている。

電子情報通信工学系 一般科目

各学科共通

区分	授業科目			単位数	学 年 別 配 当					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語 I		I	3	3					
	国語 II		II	2		2				
	国語 III		III	2			2			
	社会	地理		2	2					
	社会	歴史 I		2	2					
	社会	歴史 II		2		2				
	社会	公民 I		2		2				
	社会	公民 II		2			2			
	数学	基礎数学 I		3	3					
	数学	基礎数学 II		3	3					
	数学	基礎数学 III		2		2				
	数学	微分積分学 I		4		4				
	数学	微分積分学 II		3			3			
	数学	数学解析		3			3			
	数学	数理演習		1		1				
	理科	物理 I		2	2					
	理科	物理 II		3		3				
	理科	化学 I		3	3					
	理科	化学 II		2		2				
	保健・体育	保健・体育 I		3	3					
	保健・体育	保健・体育 II		2		2				
	保健・体育	保健・体育 III		2			2			
	保健・体育	保健・体育 IV		2				2		
	外国語	英語 I A		4	4					
	外国語	英語 I B		2	2					
	外国語	英語 II A		3		3				
	外国語	英語 II B		2		2				
	外国語	英語 III A		2			2			
	外国語	英語 III B		2			2			
	外国語	英語学演習		2			2			
	芸術	芸術 I		1	1					音楽・美術・書道から選択
	芸術	芸術 II		1		1				音楽・美術・書道から選択
	キャリア概論			1			1			1～3年で履修
	小計			75	28	26	19	2	0	
選択科目	文学特論 II		II	2				2		
	自然特論			1					1	
	数学概論 I		I	1				1		
	数学概論 II		II	1				1		
	数学概論 III		III	1					1	
	英語特論 I		I	2				2		
	英語特論 II		II	2					2	
	中国語 I		I	2				2		
	中国語 II		II	2					2	
	社会特論 I		I	2				2		
	社会特論 II		II	2					2	
	保健・体育 V		V	1					1	
	海外英語演習			1					1	
	小計			20				10	10	
開設単位合計				95	28	26	19	12	10	

科目名	国語Ⅰ Japanese I			担当教員	富士原伸弘		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220001	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。特に、学習目標のうちA1～B3の項目に重点をおいて授業を進める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス解説（1） 2. 評論「理解と誤解」（6） 3. 古文概説（7） 4. 漢文概説（7） ----- [前期中間試験]（1）			物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1			
	5. 答案返却（1） 6. 表現1：概説（3） 7. 評論「聴くということ」（6） 8. 古文「土佐日記」（6） 9. 漢文「故事」（6） ----- 前期末試験			自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3 中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	10. 答案返却（1） 11. 表現2：プレゼンテーション演習（3） 12. 小説「情報伝達という神話」（6） 13. 古文「伊勢物語」（6） 14. 漢文「論語」（6） ----- [後期中間試験]（1）			データを効果的に説明する力を養う。 B3:1-2, C4:1-2 登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2			
	15. 答案返却（1） 16. 表現3：ディベート演習（3） 17. 評論「ものと記号」（6） 18. 古文「平家物語」（6） 19. 漢文「孟子」（6） ----- 後期末試験			発言者の意図を正しく理解できる。 B3:1-3 日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2			
	20. 答案返却・解答(1)						
評価方法	年4回の定期試験90％，プレゼンテーション演習・ディベート発表・提出物等10％で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）						
教材	教科書：精選国語総合 東京書籍 小町谷照彦 他編 漢字：速修常用漢字 文英堂 参考書：新訂総合国語便覧 第一学習社						
備考	特になし						

科目名	地理 Geography			担当教員	細谷 守		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220002	単位区別	履修
学習目標	現代社会の空間事象のあり方、展開の状況を教科書・統計表・地図帳等を通して理解し、関心を持って直視できる姿勢を身につける。又、現代社会には地球的課題が存在し、その解決のためには国際協力が必要であることを理解する。						
進め方	各学習項目ごとに、教科書・地図帳・Aノート他を利用し、キーワードの確認・理解・延長へと学習内容を進めていく。又、授業には参加型学習の形態を取り入れ、興味関心を強めるよう指導する。そして、現代社会の問題点が地域から全体へ、過去から現代に通じるものであるという共時的・通時的考えを身につけさせることにより、我々の行動に責任が要求されていることを自覚させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 球面上の世界と地域構造（2） 2. 世界地図の種類と特徴（2） 3. 時差の求め方（2） 4. 国家と地域区分（2） 5. 消費行動の変化と地域差（2） 6. 中国の生活・文化（2） 7. 東南アジアの生活・文化（2） ----- [前期中間試験]（1）			地図を利用し地球の特質を理解する。また、世界の中での日本の位置の把握と領域等の現状を理解する。 A3:1 中国・東南アジア等の近隣地域の生活・文化の実態を理解し、共生の考えを身につける。 A1:3			
	8. 試験問題の解答（1） 9. 試験問題の解答、世界を結ぶ交通（2） 10. 世界を一つに結ぶ通信（2） 11. 国際化する人々の移動（2） 12. 拡大する世界の貿易（2） 13. さまざまな余暇活動（2） 14. インドの生活・文化（2） 15. 西アジアの生活・文化（2） 前期末試験			人・物・情報の移動に伴う世界の結びつきを理解する。 A1:1,A3:2 現代社会における行動権の拡大と地域差、現状を理解する。 A3:2 南アジア・西アジアの地域的特性を理解する。 A1:3			
	16. 試験問題の解答（1） 17. 世界の人口問題（2） 18. 世界の食料問題（2） 19. 世界の都市・居住問題（2） 20. 世界の資源・エネルギー問題（2） 21. アフリカの生活・文化（2） 22. ラテンアメリカの生活・文化（2） ----- [後期中間試験]（1）			気候・気候等の自然環境を学び、人間生活との関わりを理解する。 A3:1 世界に生じている人口・食料・都市・居住・資源・エネルギー問題を理解する。 A3:1			
	23. 試験問題の解答（1） 24. 近隣諸国の大気汚染への取り組み（2） 25. 近隣諸国の森林破壊への取り組み（2） 26. ヨーロッパの生活・文化（2） 27. ロシアの生活・文化（2） 28. アメリカ合衆国の生活・文化（2） 29. 韓国の生活・文化（2） 後期末試験			環境問題に関心を深め、宇宙船地球号としての各国の協力と共生による地球環境の維持の大切さを理解する。 A1:2 様々な地域の特性を理解する。 A1:3			
	30. 試験問題の解答（1）						
評価方法	定期試験 70%、作業ノート・課題レポートの提出等 30%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	歴史（1年）、歴史・倫理社会（2年）→ 政治経済（3年）						
教 材	教科書「高等学校 新地理A 初訂版」、基本地図帳 改訂版、教材「高等学校 新地理ノート 初訂版」						
備 考	特になし。						

科目名	歴史 I History			担当教員	内田由理子		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220003	単位区別	履修
学習目標	我が国の歴史の展開を、我が国を取り巻く国際環境などとも関連づけながら世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化、伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、21世紀の課題についても考察する能力を育成する。年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を重視するとともに、作業的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 縄文時代の社会(2) 2. 弥生時代の社会(2) 3. 大和政権の成立と勢力伸張(2) 4. 飛鳥時代の政治(2) 5. 律令国家の成立(2) 6. 奈良時代の社会(2) 7. 平安初期の政治(2)			旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について、東アジア世界の動向と関連付けを踏まえて、原始社会の時期、国家の形成と律令体制の確立の時期、律令体制の変質の時期の3つの構成から学ぶ。 A13			
	[前期中間試験](1)						
	8. 答案返却・解答(1) 9. 摂関政治の展開(2) 10. 院政と平氏政権(2) 11. 鎌倉幕府の成立と発展(2) 12. 室町幕府の成立と発展(2) 13. 下剋上の社会(2) 14. 戦国の動乱(2) 15. 大航海時代の余波(2)			武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化における武士が政治力をつけていく過程について、武家政権の成立期と武家政権の成長期の構成の中、世界的視野と国内諸地域への視点を踏まえて学ぶ。 A13			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答(1) 17. 織豊政権の成立(2) 18. 江戸幕府の成立(2) 19. 幕藩体制の展開(2) 20. 幕政の改革と衰退(2) 21. 開国と社会の変動(2) 22. 尊王攘夷から倒幕(3)			織豊政権から江戸時代における社会・文化について、封建的支配体制が作り上げられる幕藩体制の確立、町人文化が生み出された幕藩体制の展開、列強の接近に伴う幕藩体制の動揺の3つの構成から世界史的な流れと関連させて学ぶ。 A13			
	[後期中間試験](1)						
	23. 答案返却・解答(1) 24. 明治維新と新政府の成立(3) 25. 欧米文化の導入(2) 26. 自由民権運動の展開(2) 27. 日清・日露戦争、第一次世界大戦(3) 28. 政党政治の発展と大衆社会(2) 29. 現代の世界と日本 (1)			明治時代から第二次世界大戦後の日本の歴史の展開について、近代日本が形成されていく過程と国際社会における日本の立場と対外政策の変化、今日に至る世界の動向と日本の課題及び役割について学ぶ。 A13			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験、提出物（ノート、プリント、レポート類）や学習活動等で総合評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	世界史（2学年）→政治経済（3学年）						
教 材	教科書：宮原武夫 他著「高校日本史B」実況出版						
備 考	特になし。						

科目名	基礎数学 I Fundamental Mathematics I			担当教員	谷口浩朗, 南貴之, 森岡茂		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220004	単位区別	履修
学習目標	以下の事項について基礎理論を理解し, 基本的な問題が解けるようになること。 ・ 整式を中心とする数と式の基本的な理論 ・ 2 次方程式を中心とする方程式や不等式の理論 ・ 関数の概念と, 2 次関数を中心とする初等的な関数のグラフとその応用 ・ 直線と円を中心に, 座標による図形と式の関係とその応用						
進め方	授業は教科書, プリントなどを中心に, 講義と演習をおりまぜて行う。適宜小テスト, レポート, 提出課題などを課すことがある。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 数と式 (20) (1) 整式 (10) (2) 実数 (9)			・ 整式の四則 (加減乗除), 展開, 基本的な因数分解を理解し, 計算と基本的な応用ができる。D1:1, 2, 3			
	----- [前期中間試験] (2)						
	(3) 試験問題の解答 (1)						
	2. 不等式と方程式 (12) (1) 不等式 (6) (2) 2 次方程式 (6)			・ 基本的な方程式, 不等式が解ける D1:1, 2, 3			
	3. 2 次関数 (26) (1) 関数 (3) (2) 2 次関数のグラフ (6)						
	前期末試験						
	(3) 試験問題の解答 (1) (4) 2 次関数の最大・最小 (3) (5) 2 次関数の決定 (3) (6) グラフと方程式・不等式 (10)			・ 2 次関数のグラフを描くことができ, その基本的な応用ができる。D1:1, 2, 3			
	4. 図形と方程式 (30) (1) 点と直線 (8)						
	----- [後期中間試験] (2)						
(2) 試験問題の解答 (1) (3) 点と直線 (続き) (6) (4) 円 (6) (5) 軌跡と領域 (8)			・ 座標平面において, 点, 直線, 円, 領域などの基本的な取り扱いができる。D1:1, 2, 3 ・ 座標平面において, 不等式の表す領域を図示することができる。D1:1, 2, 3				
後期末試験							
(6) 試験問題の解答 (1)							
評価方法	4 回の定期試験の得点を平均したものを 90%, 宿題・小テスト・レポートなどの提出物・授業への取り組み等を 10%で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	基礎数学 I → 微分積分 → 線形代数						
教 材	教科書:「新版 数学 I, II」(実教出版) 問題集:「アクセスノート I+A, II」(実教出版) 参考書:「改訂版 チャート式基礎と演習 数学 I+A, II+B」(数研出版)						
備 考	通信ネットワーク工学科の学生は、以下に注意。第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。また、工事担任者の「電気通信技術の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。						

科目名	基礎数学Ⅱ Fundamental Mathematics Ⅱ			担当教員	中空 大幸, 吉澤 毅		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220005	単位区別	履修
学習目標	以下の事項について基礎理論を理解し基本的な問題が解けるようになること： ・三角関数をはじめとする基本的な関数の定義、基本性質、グラフとその応用。 ・集合、論理、場合の数						
進め方	教科書にそって講義する。基本事項と例題を解説したのち、練習の問題、チェック問題や章末問題のプリント、アクセスノート等を用いた問題演習を行う。適宜それらを宿題として課す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 三角比(11) (1) 三角比、単位円、その演習(8) (2) 相互関係(3) 2. 集合と場合の数(23) (1) 集合と要素の個数(7) (2) 場合の数(3) (3) 順列 1 (2) (4) 演習(2)			・三角比の定義、簡単な値が計算できる。D1:2 ・集合の記号を知っていて、簡単な例において、記号が扱える。D1:1 ・簡単な場合の数が計算できる。D1:2			
	[前期中間試験](2)						
	(5) 試験問題の解答(1) (6) 順列 2 (2) (7) 組合せ(3) (8) 二項定理(3) 3. 論理と集合(11) (1) 命題と条件(5) (2) 逆裏対偶、背理法(3) (3) 演習(2)			・順列や組合せの記号を知っていて、簡単な計算ができる。D1:2 ・簡単な命題について真偽が判定でき、必要条件や十分条件が区別できる。D1:2			
	前期末試験						
	(4) 試験問題の解答(1) 4. 平面図形(3) (1) 三角形の五心、接線など(3) 5. 図形と計量(10) (1) 三角比の復習、相互関係と例題(2) (2) 正弦定理、余弦定理(5) (3) 図形の計量(1) (4) 演習(2) 6. 三角関数(31) (1) 一般角、弧度法(3) (2) 三角比の復習と演習(2) (3) 三角関数、相互関係、性質(4)			・三角関数の相互関係等の公式を簡単な例に適用できる。D1:2 ・正弦定理と余弦定理を簡単な例に適用できる。D1:2			
	[後期中間試験](2)						
	(4) 試験問題の解答(1) (5) 三角関数のグラフ(8) (6) 方程式・不等式(3) (7) 演習(2) (8) 加法定理と演習(8)			・三角関数の基本的なグラフが描ける。D1:2 ・三角関数を含む簡単な方程式や不等式を解く。D1:2 ・加法定理を覚え、基本的な問題に適用できる。D1:2			
	学年末試験						
	7. 試験問題の解答(1)						
評価方法	4回の定期試験の得点を平均したものを 90%、宿題・小テスト・レポートなどの提出物・授業への取り組み等を 10%で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	基礎数学Ⅱ（1年） → 微分積分学Ⅰ（2年）						
教材	教科書：「新版 数学Ⅰ,Ⅱ」（実教出版） 問題集：「アクセスノートⅠ+A,Ⅱ」（実教出版） 参考書：「改訂版 チャート式基礎と演習 数学Ⅰ+A,Ⅱ+B」（数研出版）						
備考	通信ネットワーク工学科の学生は、以下に注意。第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。						

科目名	物理 I Physics I			担当教員	黒川 秀一		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220006	単位区別	履修
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	講義内容は概ね教科書の内容に従うが、以下のような順で講義を行うため、必ずノートをとること。 また、宿題を課し、その内容についての小テストを行う。 一方、身近な材料を使った実験を取り入れ、物理現象が身近に感じられるように配慮する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 速さと等速直線運動(3) 2. 有効数字と単位(3) 3. 変位と速度(2) 4. 加速度(2) 5. 等加速度直線運動(4)			速度、加速度を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算ができる。 D1:1,2			
	[前期中間試験](1)						
	6. 答案返却・解答(1) 7. 運動の法則(3) 8. いろいろな力(4) 9. 運動方程式の作り方(4) 10. 落下運動(3)			運動の法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることができる。 D1:1,2			
	前期末試験						
	11. 答案返却・解答(1) 12. 仕事と仕事率(2) 13. 運動エネルギー(1) 14. 位置エネルギー(2) 15. 力学的エネルギー保存則(4) 16. ベクトルの合成・分解と成分(4) 17. 力や速度の合成・分解(3)			仕事の計算ができ、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2 ベクトルの合成・分解ができ、成分を使って平面内での運動に関する計算ができる。 D1:1,2			
	[後期中間試験](1)						
	18. 答案返却・解答(1) 19. 平面運動の運動方程式・仕事(2) 20. 放物運動(3) 21. 斜面上の運動(3) 22. 剛体や流体に働く力(4)			剛体や流体に働く力を計算できる。 D1:1,2			
	後期末試験						
	23. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験を 80%，平常点（小テスト、宿題、提出物など）を 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理 I (1 年) → 物理 II (2 年), 数理演習(2 年)						
教 材	教科書：三浦登 他 著 「物理 I」, 「物理 II」 東京書籍 副教材：中村英二, 吉沢康和 監修 「新訂物理図解」 第一学習社 問題集：第一学習社編集部 編 「セミナー物理 I + II」 第一学習社						
備 考	通信ネットワーク工学科の学生は、以下に注意。 第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。 また、工事担任者の「電気通信技術の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。						

科目名	化学 I Chemistry I			担当教員	中村篤博, 長谷部一気		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	11220007	単位区分	履修
学習目標	原子、分子の概念とそれから導かれる近代化学の基本的な考え方と自然観を理解する。また、授業を通して、自然に対する興味と探求の姿勢を育成する。						
進め方	教科書と板書を中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後、演習の機会を与え、より一層の理解が深まるような進め方をする。また、学生の自主的学習のための課題を与え、そのレポートで自主的学習度を追跡する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 物質の分離と精製(4) 2. 物質の構成粒子(10) (1) 物質のなりたち (2) 原子, イオン, 分子 3. 元素の周期律と周期表(4) 4. 物質の分類と性質(4)			原子の構造と電子配置の規則性を理解し, 簡単な化合物の形成を説明できる。 D1:1,2,D3:1			
	----- [前期中間試験](1)						
	5. 答案返却・解答(1) 6. 原子量, 分子量, 式量(4) 7. 物質量(6) 8. 化学反応と化学反応式(12)			モルの概念を理解し, 質量, 物質量, 分子量の相互変換ができる。また, 簡単な化学反応式を記述できる。 D1:1,2,D3:1			
	前期末試験						
	9. 答案返却・解答(1) 10. 酸・塩基(12) (1) 酸と塩基 (2) 水の電離とpH (3) 中和反応と (4) 中和滴定 11. 酸化・還元(9)			酸と塩基の性質を説明できる。また, 電離度, pH と中和反応を理解する。 D1:1,2,D3:1			
	----- [後期中間試験](1)			各種の反応が電子の授受に密接に関連していることを説明できる。 D1:1,2,D3:1			
	12. 答案返却・解答(1) 13. 金属のイオン化傾向(6) 14. 電池・電気分解(15)			ファラデーの電気分解の法則を理解し, 簡単な反応に適用できる。簡単な電池の発電理論を説明できる。 D1:1,2,D3:1			
	後期末試験						
	15. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験を 80%, レポートや演習課題などを 20% で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	化学 I (1 年) → 化学 II (2 年)						
教 材	教科書: 梅沢嘉夫 他「精解化学 I」数研出版						
備 考							

科 目 名	保健・体育 I Health and Physical Education			担当教員	有馬弘智・筒井和代		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220008	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進 め 方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 2. 集団行動 (1) 【バレーボール】 3. パスの基礎技術(2) 4. スパイク基礎技術(4) 5. ルール説明(1) 6. チーム練習(2) 7. ゲーム(4) 8. 保健 (7) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を理解する。整列隊形や隊形変更など集団での行動を身につける。自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4, F2:1-4 バレーボールの基礎技術（パス、スパイク）を修得し、ゲームの中で、スパイクを打てるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 【保健】喫煙・飲酒と感染症について理解する A1:2			
	9. ゲーム(1) 1 0. 実技試験(1) 【水泳】 1 1. 各種目練習(3) 1 2. リレー・メドレーリレー(2) 1 3. タイム測定(1) 【鉄棒】 1 4. 基礎技術の修得(6) 1 5. 実技試験(1) 1 6. 保健(8) 前期末試験			水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳ぎの向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 鉄棒の各種目の理論を理解し、反復練習を行うことでそれらの種目を習得できるようにする。 F2:1-4, F3:1, 2 【保健】感染症と健康について A1:2			
	【バスケットボール】 1 6. 基礎技術の習得(3) 1 7. 対人練習 (5) 1 8. ルール説明 (1) 1 9. チーム練習 (1) 2 0. ゲーム(4) 2 1. 実技試験(1) 2 2. 保健 (7) ----- [後期中間試験]			バスケットボールの基礎技術（パス、ドリブル、シュート）を修得し、3ON3の中で、活用できるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 【保健】思春期の性と加齢について理解する。 A1:2			
	【サッカー】 2 3. 基礎技術の習得(3) 2 4. 対人練習 (5) 2 4. フォーメーションの理論(1) 2 4. ゲーム(5) 2 5. 実技試験(1) 2 6. 【保健】(8) 後期末試験			サッカーの基礎技術（パス、ドリブル、シュート）を修得し、ゲームの中で、活用できるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 【保健】いろいろな社会の環境を理解する。 A1:2			
	後期末試験						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教 材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店、教科書「現代保健」（改訂版） 大修館書店						
備 考	特になし						

科目名	英語 I A English IA			担当教員	森 和憲・藤井 数馬・Robert Johnston		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220009	単位区別	履修
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能の全体的な向上を目指し、基本的なコミュニケーション能力の育成を図る。これらの技能の養成の基礎として、基本的な文法や語彙の知識が必要とされるので、語彙や英文法の知識の修得も図る						
進め方	(森) 文法の演習問題を課題として与え、その解説を中心に授業を行う。定期的に単語の暗記テストを行う。 定期的に英文法の小テストを行う (藤井) 週1時間は、教科書を使ったリスニング、音読、暗唱、口頭発表等を単独授業で行う。週1時間はネイティブ講師とのチームティーチングによって、リスニングやスピーキングを中心に行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	文法学習（14） （文型・動詞・時制・完了形） Scene 1～3（7） Lesson 1～4（7）			基本的な文法項目を理解することができる B1:1-2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1-2 簡単な英語表現を発話できる B2:1-2			
	----- [前期中間試験]（2）						
	試験問題の解答（2） 文法学習（13） （助動詞・態・不定詞・動名詞） Scene 4～6(7) Lesson 5～8（6）			基本的な文法項目を理解することができる B1:1-2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1-2 簡単な英語表現を発話できる B2:1-2			
	前期末試験						
	試験問題の解答（2） 文法学習（13） （比較・分詞・関係詞・仮定法） Scene 7～8(7) Lesson 9～12（6）			基本的な文法項目を理解することができる B1:1-2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1-2 簡単な英語表現を発話できる B2:1-2			
	----- [後期中間試験]（2）						
	試験問題の解答(2) 文法学習（13） （時制の一致・応用英文法） Scene 9～10(7) Lesson 13～16（6）			基本的な文法項目を理解することができる B1:1-2 簡単な英語表現を組み立てることができる B2:1-2 簡単な英語表現を発話できる B2:1-2			
	後期末試験						
評価方法	(森和) 中間・期末試験を80％、小テスト10％・提出物等を10％の比率で総合評価する。 (藤井) 定期試験・インタビューテスト80％、課題・取組態度など20％の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I B						
教材	教科書：桐原書店編集部：Intensive English Grammar in 27 Lessons（桐原書店） 英単語帳：田中茂範監修『DATABASE3000』（桐原書店） 演習問題集：桐原書店編集部: Intensive English Grammar Training Book（桐原書店） 安河内哲也『英文法レベル別問題集2 基礎編』（東進ブックス） 『True Colors』数研出版 『True Colors ワークブック』数研出版 『Departure』大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 I B English IB			担当教員	鳥越 秀知		
学年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220010	単位区別	履修単位
学習目標	英文読解力の養成を中心に行う。容易な英文から始めて様々な英文を読み、英文に慣れることによって読解力を養う。また、内容把握や語句・文法の解析を通じて、読解力の基礎となる英文法の知識の定着と語彙力の増強を図る。						
進め方	高校検定教科書を用い、読む・聞く・書く・話す能力をバランスよく訓練する。 語彙、リスニングなどの課題を適宜行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. Lesson 1 New faces, new places (7) 2. Lesson 2 When I was sixteen (7)			・ 基本的な文型が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2 ・ 助動詞の用法が理解できる。 ・ 受動態が理解できる。			
	----- [前期中間試験] (1)						
	3. Lesson 3 Abu Simbel (7) 4. Lesson 4 Punana Leo (8)			・ 不定詞の基本的用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2 ・ 動名詞の基本的用法が理解できる。 ・ 現在完了系、過去完了系が理解できる。			
	前期末試験						
	5. Lesson 5 Diving into mystery (7) 6. Lesson 6 Living with chimpanzees (7)			・ 現在分詞、過去分詞の用法が理解できる。 ・ 名詞節の用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2 ・ 関係代名詞の用法が理解できる。 ・ 比較級、最上級が理解できる。			
	----- [後期中間試験] (1)						
	7. Lesson 7 Not so long ago (7) 8. Lesson 8 Good ol' Charlie Brown (7)			・ 関係副詞の用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2 ・ 使役動詞の用法が理解できる。 ・ さまざまな名詞節の用法が理解できる。			
	後期末試験						
	19. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 80%，取り組み態度，レポートなどを 20%の比率で評価する。						
履修要件	なし。						
関連科目	英語 I A						
教材	『 Crown English Series I New Edition 』（三省堂） 『 Crown English Series I New Edition Workbook Standard 』（三省堂）						
備考							

科 目 名	芸術 I (音楽) Art I (Music)			担当教員	穴吹昌子		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	11220011	単位区別	履修
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。音楽に対する関心を高め、想像力豊かな有為な人格を育成する。						
進め方	・ 基礎的技能と表現能力を伸ばす。音に対する敏感な感性を育てる環境に配慮する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 発声の基本 (1)			ストレッチの重要を学ぶ B2:1			
	2. 校歌 (2)			愛校心を育て、音による豊かな感性を育む B2:2			
	3. 井上陽水の作品 (3)						
	4. ビートルズの作品 (1)						

	5. 杉本竜一の作品 (2)			3~5. 良質の楽曲に出会い、その曲想にのって声をたっぷりと出し、歌うことの楽しさを積極的に味わう B1:1			
	6. 主要音楽用語のテスト、答案解説 (4)						
7. 聴音のテスト、答案解説 (2)							
学習内容	8. ミュージカル作品 (2)			8, 9.			
	9. 映画音楽 (2)			ミュージカルの古今の名作に触れ、広く劇音楽というものへの興味、関心を高める A1:3			
	10. 季節と歌う (1)						
	11. 現代の日常耳にする楽曲 (3)			現代性とポピュラリティーに的を絞って、音楽的、教育的価値を多角的に捉える。 B1:1			

	12. 民族音楽 (1)			日本語の美しさを歯切れのよいすっきりとした発音と表情で歌う B2:1			
	13. 日本の歌 (4)						
	14. 鑑賞 (1)						
15. 小論文 (1)							
評価方法	授業態度、試験、実技点を総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術科目						
教 材	教科書：山本文茂著「改訂新版 高校生の音楽 1」 音楽之友社						
備 考	特になし						

科 目 名	芸術Ⅰ（美術） ArtⅠ（Fine Arts）			担当教員	永井 崇幸		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220012	単位区別	履修
学習目標	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
進 め 方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 鉛筆デッサン― ペンを持った手 (2)			鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。 E6:1			
	2. 記憶の絵地図 着彩 (6)			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。 B2:1 自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。 B2:1			

	3. 構成と表現 （１）色彩の学習 （２）「楽しい」と「悲しい」の表現 着彩 (7)			色の知覚・心理的効果を学習して、効果的な色彩表現を学ぶ。 E6:1			
	4. 構成と表現 （３）「寒い」と「暖かい」の表現 着彩 （４）「明るい」と「暗い」の表現 鉛筆描 写、着彩 (6)			はみ出さないように着色できる。混色ができる。比較することで観念的でないイメージを膨らませる。形と色によって、言葉で表現できない表現が可能であることを認識する。 E6:1			

5. 精密描写 鉛筆デッサン、着彩 (9)			身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現ができる。 B2:1 デッサンをして淡彩画の着色をする。 E6:1				
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術Ⅰ（美術）（1年） → 芸術Ⅱ（美術）（2年）						
教 材	スケッチブックと絵の具（アクリルガッシュ）を購入。（2年間使用）						
備 考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け付け、評価の対象にします。 学習・教育目標との関係: (A) 「社会と文化に理解を深め、他人の物の見方や考え方を知る。」 (B) 自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						

科 目 名	芸術 I （書道） Art I (Calligraphy)			担当教員	寺坂文和		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220013	単位区別	履修
学習目標	国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書の美を追求していくことを目指す。 書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書の美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。						
進 め 方	・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。						
学習内容							
	1. 書の美を求めて	(1)	書の美とは何かを考えさせる A3:1				
	2. 楷書の学習の基本	(2)	書の基本形を把握する B2:1				
	3. 厳正な楷書と温雅な楷書 九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書	(2)	古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。 B1:1				
	4. 重厚な楷書と軽快な楷書 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書	(2)					

	5. 行書の特徴	(1)	創作の手順を理解し作品づくりをする。 B2:1				
	6. 蘭亭序の鑑賞	(1)					
	7. 蘭亭序の臨書（半紙）	(2)					
	8. 蘭亭序の臨書（画仙紙半切）	(4)					
	9. 行書による創作	(2)	「いろは歌」により基本的なものを身につける。 B1:1				
	10. 平仮名の単体	(2)					
	11. 変体仮名	(3)					

12. 連綿	(2)	連綿の方法や仮名の流動美を理解する。 A1:3					
13. 漢字仮名交じりの書の学習	(2)	漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける B2:1					
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
15. 用筆・運筆および用具・用材の工夫	(2)						
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教 材	教科書：今井凌雪著「新編 書道 I」 教育出版						
備 考	特になし						

科目名	国語Ⅱ JapaneseⅡ			担当教員	東城 敏毅		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220014	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	講義形式を基本とする。また論述演習・発表演習・相互議論も随時授業内に組み入れる。原則として週に1回漢字テストを実施する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス（2） （1）現代文ガイダンス （2）古典ガイダンス 2. 評論Ⅰ（10） （1）「身体像の近代化」 3. 古典Ⅰ（3） （1）「梓弓」（伊勢物語）			物事の核心を把握する方法を身につける。 A3:1-2 日本人の思考・現代的な思考について考える。 A3:1-2 日本の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	----- [前期中間試験]（1）						
	4. 試験問題の解答（1） 5. 古典Ⅱ（5） （1）「小柴垣のもと」（源氏物語） 6. 表現Ⅰ・小説Ⅰ（10）―「山月記」 （1）読解 （2）相互議論			多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2			
	前期末試験						
	7. 試験問題の解答（1） 8. 評論Ⅱ（9） （1）「動物のこぼれ・人間のこぼれ」 9. 古典Ⅲ（5） （1）「春はあけぼの」 （2）「世の中になほいと心憂きものは」 （枕草子）			日本人の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3			
	----- [後期中間試験]（1）						
	10. 試験問題の解答（1） 11. 表現Ⅱ・小説Ⅱ（14）―「レキシントンの幽霊」 （1）班別討議 （2）プレゼンテーション演習 （3）相互議論・ディベート演習 （4）レポート作成			データを効果的に説明する力を養う。 C4:1-4 発言者の意図を正しく理解できる。 B1:1-2, B3:1-3 簡潔に記述する力を養う。 B2:1-2			
	後期末試験						
	12. 試験問題の解答（1）						
評価方法	評価の内訳： 定期試験 70%, 授業内演習・提出物 20%, 漢字テスト 10%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）						
教材	教科書：高等学校現代文改訂版 三省堂 柴田武他編 教科書：新編古典 筑摩書房 鈴木日出男他編 漢字：ポイント整理常用漢字の学習 明治書院 参考書：新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	歴史Ⅱ History			担当教員	内田由理子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220015	単位区別	履修
学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質及び人類の課題を広い視野から多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。また、学習教育目標である「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を、授業を通して培っていく。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：世界の歴史の展開を、広い視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、地球世界の課題についても考察する能力を育成する。年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を重視するとともに、作業的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 人類の進化(2) 2. メソポタミア文明(2) 3. エジプト文明(2) 4. 東地中海世界(2) 5. ギリシア世界(2) 6. ヘレニズム世界(2) 7. ローマ帝国と地中海世界(2)			農業と牧畜の発生により世界各地に都市文明が生まれていった。また文字は文明を発展させ伝達する役割をはたしていく。このように世界各地には独自の地域世界が形成されていった。人類の残した古代文明と地域世界の展開にはどのような特色がみられるのか、オリエント文明、地中海文明を中心に学ぶ。 A13			
	[前期中間試験](1)						
	8. 答案返却・解答(1) 9. 中国文明の形成(2) 10. 秦漢帝国の成立(2) 11. 魏晉南北朝の動乱(2) 12. 隋唐帝国の成立(2) 13. イスラーム国家の成立と展開(2) 14. 南アジア世界(2) 15. ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界(2)			中国の諸王朝の変遷と社会・文化、そして、南アジア世界における文明の生成と発展について学ぶ。世界宗教となるイスラームの特徴と、イスラーム世界の成立について学ぶ。ヨーロッパ世界の地政学的な特質や、ローマ帝国の解体にともなった東西世界の成立について学ぶ。 A13			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答(1) 17. 西ヨーロッパ世界の成立(2) 18. ヨーロッパ世界の変動(2) 19. 北方諸民族と宋の抗争(2) 20. モンゴル帝国の興亡(2) 21. 明清帝国の繁栄(2) 22. 大航海時代とアメリカ・アフリカ(3)			ゲルマン人・ノルマン人・スラブ人・イスラーム勢力が、ヨーロッパ世界の政治と経済・社会・文化に及ぼした影響を学ぶ。モンゴル発展の背景と展開、明清の政治体制と冊封体制にもとづく国際秩序の形成について学ぶ。「大航海時代」の背景、世界の一体化の進展について学ぶ。 A13			
	[後期中間試験](1)						
	23. 答案返却・解答(1) 24. ルネサンスと宗教改革(2) 25. 近代主権国家の成長(3) 26. フランス革命とナポレオン(3) 27. 世界市場の形成と世界の分割(2) 28. 第一次世界大戦とロシア革命(2) 29. 第二次世界大戦と戦後世界の形成と変容(1)			中世社会から近世への転換、絶対王政の成立と主権国家体制、フランス革命や産業革命が19世紀の欧米諸国に与えた影響、世界資本主義システムの形成、帝国主義の世界分割、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる政治の展開、全地球的規模で取り組まねばならない課題について学ぶ。 A13			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験、提出物（ノート、プリント、レポート類）や学習活動等で総合評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	日本史・地理（1学年）→国語/漢文（2学年）→政治経済（3学年）						
教材	教科書：岡崎 勝世 他著「明解 新世界史A」帝国書院						
備考	特になし。						

科 目 名	公民 I Civics I			担当教員	山岡 健次郎、森 正幸		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220016	単位区別	履修
学習目標	1. 青年期の意義、及び課題を心理学的見識から考え、主体性の確立をはかる。 2. 宗教が人生にどのような意味を与えているかを考える。 3. 先哲の生き方、考え方を手がかりに人生の価値追求への関心を高める。 4. 現代社会が及ぼすさまざまな事象への倫理的あり方に関して考える。						
進 め 方	教科書の内容と実際に生じている事例を、知識として把握するだけでなく、自らに課せられた問題として、問題事象への倫理的あり方に対しての直感と先哲等の考え方等を参照しながら、自らがどう対処すべきかを、討論形式及びレポート提出等を通じて主体的に述べさせ、生き方の諸課題に自らが参加する進め方をする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 「倫理」とは（2） 2. <わたし>とは何か（2） 3. 身体と性（2） 4. 障害を捉え直す（2） 5. 死について（2） 6. 私たちの生きる社会（2） 7. 変貌する家族（2） ----- [前期中間試験]（1）			倫理社会で何を学ぶのかを理解する。 自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる。 A1:3 心理学等を通しての人の本質を理解する。			
	8. 答案返却・解答（1） 9. 情報社会の中で（2） 10. 社会との関わりの中で（2） 11. 生命倫理に関して（2） 12. 命の意味（1） 13. 環境倫理を考える（2） 14. 伝統の継承と発展（1） 15. 共存する社会（3） ----- 前期末試験			現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する。 A1:1,2			
	16. 答案返却・解答（1） 17. ユダヤ教とイエスの宣教（3） 18. キリスト教の展開（2） 19. インドの思想の展開（2） 20. 仏教の思想（2） 21. 仏教の日本的展開（2） 22. 日本の思想（2） ----- [後期中間試験]（1）			聖書を通して一神教の考えを理解する。 A1:3 キリスト教の理解を深める。 A3:2 ウパニシャッド哲学を考える。 A3:2 釈迦の正覚したことを理解する。 A3:1 親鸞等の考え方を理解する。 A3:1			
	23. 答案返却・解答（1） 24. ギリシア自然哲学（2） 25. ソクラテス、プラトン、アリストテレス(4) 26. アリストテレス（2） 27. ヘレニズム哲学（2） 28. 合理的精神：ベーコンとデカルト（2） 29. 近代の人間観（1） ----- 後期末試験			哲学の発生と変遷をたどる。 A3:2 善く生きることの意義を考え、本質・真実について考察する。 A3:1 形相と質量等のとらえ方を学ぶ。 A3:1			
	30. 答案返却・解答（1）			帰納法と演繹法を理解する。 A3:1			
評価方法	定期試験を主たる評価とし、レポートと平常点（授業態度）を加味する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	歴史・地理（1 学年）→歴史（2 学年）→政治経済（3 学年）						
教 材	教科書：鷲田清一 監修『倫理』教育出版						
備 考	特になし。						

科目名	基礎数学Ⅲ MathematicsⅢ			担当教員	橋本竜太, 中空大幸		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220017	単位区別	履修
学習目標	以下の事項について基礎理論を理解し, 基本的な問題が解けるようになること。 ・ 2 次方程式や高次方程式の基本的な理論, 式の証明の考え方 ・ 指数や対数の基本的な計算 ・ 平面上のベクトルの基本的な理論						
進め方	授業は教科書やプリントなどを中心教材として, 講義と演習をおりまぜて行う。小テスト, レポート, 提出課題などを適宜課することがある。進度が速いので, 予習復習は必須。とくに, 授業時間内でなくてもできる計算練習には, 授業時間外に各自で取り組むことが要求される。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 複素数と方程式, 式と証明 (24) (1) 整式と除法 (2) (2) 分数式 (2) (3) 恒等式 (2) (4) 複素数 (3) (5) 2 次方程式 (5)			分数式の基本的な四則演算ができる。D1:1, 2 2 次方程式を扱うことができる。D1:1-3			
	[前期中間試験] (1)						
	(6) 試験問題の解答 (1) (7) 因数定理 (2) (8) 高次方程式 (2) (9) 式と証明 (5) 2. 指数・対数 (16) (1) 指数の拡張 (5)			因数定理を活用することができる。D1:1, 2 式の証明の基本的な方法を扱うことができる。D1:1-3 指数に関する基本的な計算ができる。D1:1, 2			
	前期末試験						
	(2) 試験問題の解答 (1) (3) 指数関数 (3) (4) 対数 (3) (5) 対数関数 (4) 3. 平面上のベクトル (20) (1) ベクトル (1) (2) ベクトルの演算 (3)			対数に関する基本的な計算ができる。D1:1-3 ベクトルの基本的な演算ができる。D1:1, 2			
	[後期中間試験] (1)						
	(3) 試験問題の解答 (1) (4) ベクトルの成分 (3) (5) ベクトルの内積 (4) (6) 位置ベクトル (2) (7) 平面図形の性質を調べるベクトル (2) (8) ベクトル方程式 (3)			ベクトルを用いて平面図形の基本的な性質を調べることができる。D1:1-3			
	後期末試験						
	(9) 試験問題の解答 (1)						
評価方法	4 回の定期試験の得点を平均したものを 90%, 宿題・小テスト・レポートなどの提出物・授業への取り組み等を 10% で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {微分積分学Ⅰ, <u>基礎数学Ⅲ</u> } → {微分積分学Ⅱ, 数学解析}						
教 材	教科書:「新版数学Ⅱ」「新版数学B」(実教出版) 演習書:「アクセスノート数学Ⅱ」「アクセスノート数学B」(実教出版) 参考書:「改訂版 チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」(数研出版) その他, 配布プリントなど						
備 考	通信ネットワーク工学科の学生は, 第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除を受けるには本科目の単位取得が必要。						

科目名	微分積分学Ⅰ Differential and Integral Calculus I			担当教員	谷口 浩朗，橋本 竜太， 南 貴之，森岡 茂		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220018	単位区別	履修
学習目標	工学や自然科学を学ぶ上で、微分積分の素養はもはや欠かすことはできない。変化を把握する「微分」や変化の蓄積を測る「積分」の概念に十分馴染んでさまざまな分野で有効に活用できるようになるための第一歩として、微分積分法の基礎計算技術の習得および微分積分の基本概念の修得を目指す。						
進め方	α ， β ， γ の各クラスに分かれて習熟度別に学習する。各クラスでは以下のような基本方針の下で講義が展開される。 α クラスは応用力を養成する。 β クラスは小テストや演習を通して、工学のどの分野を学ぶにも困らないレベルの演算能力を身につける。 γ クラスは1年次の復習も兼ねながら、基礎学力の定着を図る。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 微分・積分(28) (1)微分法 (2)微分法の応用 (3)積分法 ----- [前期中間試験](2)			・多項式の微分積分が出来る D1:3			
	3. 数列(22) (1)数列とその和 (2)数学的帰納法 4. 関数(8) (1)分数関数 (2)無理関数 ----- 前期末試験			・簡単な数列の和が求められる D1:3 ・数学的帰納法を用いて簡単な命題の証明ができる D1:3 ・いろいろな関数を扱うことが出来る D1:3			
	関数（続き）(4) (3)逆関数・合成関数 5. 極限(24) (1)数列の極限 (2)関数の極限 ----- [後期中間試験](2)			・数列及び関数の極限が計算できる D1:3			
	6. 微分法（14） (1)微分係数と導関数 (2)積・商の微分法 (3)合成関数と逆関数の微分法 (4)曲線の方程式と微分 (5)三角関数の導関数 (6)対数関数と指数関数の導関数 (7)高次導関数 7. 微分法の応用(16) (1)接線と法線 (2)平均値の定理 (3)関数の増加・減少と極大・極小 (4)関数のグラフ (5)いろいろな応用 (6)曲線の媒介変数表示 ----- 後期末試験 8. 試験返却・解答(1)			・いろいろな関数の導関数が計算できる D1:3 ・導関数を用いて接線・法線が求められる D1:3 ・導関数を用いていろいろな関数の関数のグラフが描ける D1:3			
評価方法	定期試験 90%程度，残りをレポート，小テスト，宿題，演習などで総合評価する。 定期試験は α ， β ， γ のクラスを問わず同一の問題で実施する。						
履修要件	特に無し						
関連科目	基礎数学Ⅰ（1年） → 微分積分学Ⅰ（2年） → 微分積分学Ⅱ（3年）						
教材	教科書：「新版数学Ⅱ」，「新版数学B」，「数学Ⅲ」 問題集：「アクセスノート数学Ⅱ」、「アクセスノート 数学B」，「アクセスノート 数学Ⅲ」 参考書：「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」，「チャート式基礎と演習 数学Ⅲ+C」						
備考	通信ネットワーク工学科の学生は、以下に注意。第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。						

科目名	数理演習 Exercise of Physics			担当教員	高吉 清文		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	11220019	単位区別	履修
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，数式として表現することで，科学的な考え方を定着させる。						
進め方	毎回，学習項目にそった小テストを行い，その解説を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 力学Ⅰ(8) (1) 物体の運動 (2) 落下運動 (3) 力のつりあい (4) 運動の法則 (5) 力学的エネルギー ----- [前期中間試験](1)			速度，加速度，運動の法則を理解し，いろいろな運動において運動方程式を立てて，解くことができる。 D1:1,2 仕事の計算ができ，力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2			
	2. 答案返却・解答(1) 3. 力学Ⅱ(8) (1) 運動量と力積 (2) 円運動 (3) 単振動 (4) 万有引力 前期末試験			運動量，力積を理解し，運動量保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2 円運動など力の向きが一定でない物体の運動に関する計算ができる。 D1:1,2			
	4. 答案返却・解答(1) 5. 波動(5) (1) 波の性質 (2) 音波 (3) 光波 ----- [後期中間試験](1)			波動の概念を理解し，典型的な例である音波，光波の性質について理解し，計算できる。 D1:1,2			
	6. 答案返却・解答(1) 7. 熱力学(5) (1) 熱とエネルギー (2) 気体の変化と分子運動 (3) 気体の状態変化 後期末試験			熱力学の基本的な法則を理解し，熱力学量を計算できる。 D1:1,2			
	8. 答案返却・解答(1)						
	評価方法						
	定期試験を 50%，平常点（小テスト，宿題，提出物など）を 50%の比率で総合評価する。						
	履修要件						
	特になし						
関連科目							
物理Ⅰ(1年) → 物理Ⅱ(2年), 数理演習(2年)							
教 材							
教科書：三浦登 他 著 「物理Ⅰ」, 「物理Ⅱ」 東京書籍 問題集：第一学習社編集部 編 「セミナー物理Ⅰ＋Ⅱ」 第一学習社							
備 考							
通信ネットワーク工学科の学生は，以下に注意。 第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。							

科目名	物理Ⅱ Physics II			担当教員	長谷部一気		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	11220020	単位区分	履修
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理、法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	前期は、力学の基礎と波動の理解を深め、その普遍的な性質を議論する。後期は、熱物理と実験を通じ、物理学の考え方、実験手法を習得するよう進める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 平面上の運動（3） 2. 運動量と力積（3） 3. 円運動（3） 4. 単振動（3） 5. 万有引力（3） 6. 波の表し方（3） 7. まとめ（3）			運動量、振動、万有引力、波の基礎的概念について習得する。D1:1-3			
	[前期中間試験]（1）						
	8. 正弦波、エネルギー（3） 9. 干渉と重ね合わせの原理（3） 10. 定常波（3） 11. 音波（3） 12. 発音体の固有振動（3） 13. ドップラー効果（3） 14. まとめ（3）			波の典型的な例である、音についての性質について習得する。D2:1-3			
	前期末試験（1）						
	15. 光波の性質（3） 16. 回折、干渉、偏光（3） 17. 温度と熱（3） 18. 比熱、熱容量（3） 19. 熱力学第一法則（3） 20. エントロピー（3） 21. 試験問題の解答と授業評価アンケート（2） 22. 一般物理実験準備（2）			熱力学についての基本的な事柄と熱力学量についての理解ができています。D1:1-3			
	[後期中間試験]（1）						
	23. 実験（21） A：密度測定、B：向心力、C：重力加速度、D：サークルの実験、E：固体の比重、F：熱膨張係数、G：固体の比熱、H：熱の仕事当量 など			（左記のテーマの中から 3～4 人で 1 グループを形成し 2 又は 3 週間毎の輪番で実験を行う。） 実験終了一週間後に報告書を提出。 B1:2,B2:1,B3:1,C1:1,E6:1-3,E1:1,2,D5:2			
評価方法	前期は中間と期末の試験を行い、その結果を重視した評価を行う。 後期は、中間試験、実験レポート、課題レポート。また、全体を通して授業態度を重視して評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	数学、化学						
教材	教科書：「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」東京書籍、参考書：阿部 龍蔵著 基礎からベスト 物理実験書：下村 健次 著 基礎物理学実験 増訂版						
備考	参考書の内容のまとめ、問題を解答のレポートの提出を課すことがある。 通信ネットワーク工学科の学生は第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。						

科 目 名	化学Ⅱ Chemistry II			担当教員	中村篤博		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	11220021	単位区分	履修
学習目標	物質の状態変化によって起こる諸現象について理解し，反応一般論として反応速度，化学平衡の法則を理解する。有機化学では，有機化合物の体系的把握をし，その性質，反応性が主として各種官能基，結合種，分子構造によることを理解する。また，実験を通して，既習の化学知識の実体験と実験技術を習得する。						
進め方	教科書と板書を中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後、演習の機会を与え，より一層の理解が深めることができるように進める。また，実験を行うことで，講義で扱った内容を実体験するとともに，方法，結果，考察などをレポートとしてまとめる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 化学結合 (4) (1) 化学結合 (2) 分子の極性と分子間力 2. 熱化学 (5) (1) 熱化学方程式 (2) ヘスの法則 3. 物質の三態 (6) (1) 粒子の熱運動 (2) 三態の変化 ----- [前期中間試験] (1)			原子の構造と電子配置の規則性を理解し，簡単な化合物の形成を説明できる。 D1:1,2,D3:1 化学反応における量的な関係と反応熱を理解する。また，物質の状態変化と，その性質について理解する。 D1:1,2,D3:1			
	4. 答案返却・解答 (1) 5. 気体 (5) (1) 気体の体積 (2) 気体の状態方程式 6. 溶液 (5) (1) 溶解のしくみと溶解度 (2) 希薄溶液の性質 (3) コロイド溶液 7. 化学実験① (4) 前期末試験			気体の温度，体積，圧力の関係について理解する。また，溶解の仕組みと溶液の性質を理解し，各種計算問題を解くことができる。 D1:1,2,D3:1 化学実験操作を習得するとともに，結果に対して簡単な考察を加えることができる。 D1:1,3,E1:1,2			
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 反応速度 (5) (1) 反応速度の表し方 (2) 反応条件と反応速度 (3) 反応の仕組みと反応速度 10. 化学平衡 (5) (1) 可逆反応と化学平衡 (2) 平衡の移動と平衡定数 (3) 電解質溶液の化学平衡 11. 化学実験② (4) ----- [後期中間試験] (1)			化学反応を起こすための仕組みを理解し，反応速度を変えるための条件を説明できる。また，平衡状態を理解し，平衡の移動を判断できる。 D1:1,2,D3:1 化学変化を注意深く観察し，実験操作や結果を適切にまとめることができる。 D1:1,3,E1:1,2			
	12. 答案返却・解答 (1) 13. 有機化合物 (11) (1) 有機化合物の性質 (2) 脂肪族炭化水素 (3) アルコールと関連化合物 (4) 芳香族化合物 14. 生命と生活の化学 (2) 後期末試験			各種有機化合物の性質を理解し，構造式の決定ができる。また，各種有機化合物間の関係について理解している。 D1:1,2,D3:1 高分子化合物を中心として，身の周りの物質を化学的に説明することができる。 D1:1,2,D3:1			
	15. 答案返却・解答 (1)						
	評価方法						
	定期試験を 80%，レポートや演習課題などを 20%で評価する。						
	履修要件						
	特になし						
関連科目							
化学Ⅰ → 化学Ⅱ							
教 材							
教科書：梅沢嘉夫 他「精解化学Ⅰ」「精解化学Ⅱ」 数研出版							
備 考							

科目名	保健・体育Ⅱ Health and Physical EducationⅡ			担当教員	横山学		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220022	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【ソフトボール】 2. 捕球・送球の基礎技術(1) 3. バッティングの基礎技術(3) 4. ルール説明(1) 5. ゲーム(5) 6. 実技試験 (1) 【マット運動】 7. 基礎技術の修得(7) 8. 実技試験(1) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を理解する。 F2:1-4 ソフトボールの基礎技術（捕球・送球・バッティング）を理解し、向上を目指す。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5 マット運動の基礎技術を修得し、自己の能力に適した技を選んだ上で、連続的に表現できるようにする。 F3:1, 2			
	【水泳】 9. 各種目練習(3) 10. リレー・メドレーリレー(2) 11. タイム測定(1) 【陸上競技】 12. 3種競技の基礎技術(7) 前期末試験			水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳ぎの向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 個人の運動能力を向上させると共に、走跳投 3 種目の技術を修得する。 F2:1-4, F3:1, 2			
	13. 記録測定(3) 【スポーツテスト】 14. 記録測定(3) 【サッカー】 15. パス・トラップ練習(1) 16. ルール説明・ゲーム(9) ----- [後期中間試験]			毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	17. 実技試験(1) 【バスケットボール】 18. 対人練習(1) 19. シュート練習(2) 20. ルール説明(1) 21. ゲーム(5) 22. 実技試験(1) 後期末試験			ルールとシステムを理解し、ゲームを運営できるようにする。 F3:1-5 2人以上のプレイを理解し、ゲームの中で活用できるようにする。また、ルールを把握し、ゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店、教科書「現代保健」（改訂版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語ⅡA EnglishⅡA			担当教員	畑 伸興		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220023	単位区別	履修
学習目標	英語でのコミュニケーションに必要な基本的な文法力及びリスニング能力の定着を目指す。						
進め方	①英文法・語法の教科書を使用し、文法力の強化を図る。 ②資格試験（特に英検）対策として自作プリントを使用し、リスニング力の強化を図る。 ③英単語・熟語の教科書を使用し、語彙力の強化を図る。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	①Part 2 準動詞（14） ②及び③（8）			①不定詞・分詞・動名詞が理解できる。B1, 2 ②資格試験ができる。B1, 2 ③語彙力が身につく。B1, 2			
	----- [前期中間試験]（1）						
	試験問題の解答（1） ①Part 2 準動詞（14） ②及び③（7）			①不定詞・分詞・動名詞が理解できる。B1, 2 ②資格試験ができる。B1, 2 ③語彙力が身につく。B1, 2			
	前期末試験						
	試験問題の解答（1） ①Part 3 関係詞・比較・仮定法・接続詞（14） ②及び③（7）			①関係詞・比較・仮定法・接続詞が理解できる。B1, 2 ②資格試験ができる。B1, 2 ③語彙力が身につく。B1, 2			
	----- [後期中間試験]（1）						
	試験問題の解答（1） ①Part 3 関係詞・比較・仮定法・接続詞（14） ②及び③（7）			①関係詞・比較・仮定法・接続詞が理解できる。B1, 2 ②資格試験ができる。B1, 2 ③語彙力が身につく。B1, 2			
	後期末試験						
試験問題の解答（1）							
評価方法	年4回の定期試験を50％、授業への取り組み状況50％（ノート・プリント点検及び提出物）で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語ⅠA（1年）→英語ⅡA（2年）→英語Ⅲ（3年）						
教 材	①EXPERT 英文法・語法演習（文英堂） ②自作プリント ③DataBase 3000（定着ノートも含む）（桐原書店）						
備 考	定期試験だけでなく、日頃の授業も大切であるので、いつも勉強意欲をもってほしい。						

科 目 名	英語ⅡB			担当教員	出淵 幹郎		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11220024	単位区別	履修単位
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能全ての向上を目指し、基本的な語学力（英検準2級から2級程度）および教養を身につける。さらに、青年期の学生にふさわしい内容の教材を用い、英語を通じての人的成長を目指す。						
進め方	高校検定教科書を用い、読む・聞く・書く・話す能力をバランスよく訓練する。 語彙、リスニング、文法の小テストを適宜行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1, Lesson 1 Greetings from the Heart (7) 2, Lesson 2 New Rules for Themselves (7)			・基本的な文型が理解できる。 ・助動詞の用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	----- [前期中間試験] (1)						
	1, Lesson 3 Messages from the Sea (5) 2, Lesson 4 A Model of the Atomic Bomb Dome (5) 3, Reading 1 The Case of the Missing Will (5)			・分詞構文の基本的用法が理解できる。 ・過去分詞の基本的用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	1, Lesson 5 Kaneko Misuzu (7) 2, Lesson 6 Wonders of Memory (7)			・関係代名詞の用法が理解できる。 ・関係代名詞の非制限用法が理解できる。 ・現在完了進行形の用法が理解できる。 ・過去完了進行形の用法が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	----- [後期中間試験] (1)						
	1, Lesson 7 Nowhere Man (5) 2, Lesson 8 Aboriginal Art in Australia (5) 3, Reading 2 The Weeping Camel (5)			・仮定法過去の用法が理解できる。 ・仮定法過去完了の用法が理解できる。 ・さまざまな仮定法の表現が理解できる。 B1:1-2 B2:1-2			
	後期末試験						
評価方法	評価の内訳は定期試験80%、提出物や小テスト20%とする。						
履修要件	なし。						
関連科目	英語ⅡA						
教 材	EXCEED English Series Ⅱ（三省堂）、ワークブック						
備 考							

科 目 名	音楽			担当教員	穴吹昌子		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	11220025	単位区別	履修
学習目標	音楽の諸活動を通して、個性豊かな表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う						
進め方	多様な音楽を教材として取り入れ、それぞれの音楽の価値を認めつつ、芸術性豊かなものへと目指していく						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. カーペンターズの作品 (2) 2. ビートルズの作品 (1) 3. サイモン＆ガーファンクルの作品 (2) 4. 日本のこころ (2)			1～3 では、音楽は美しいと感じるような感性を養う A1:3 「島唄」を通して沖縄の音楽を学ぶ A1:3			
	5. 民俗と音楽 (3) 6. 西洋音楽の作曲家の肖像 (2) 7. 実技テスト (3)			口頭伝承の作品を学ぶ B1:1 音楽が心の表象であることを理解する B1:1 音色と個性のハーモニーに努める B2:1			
	8. ポピュラー音楽 (2) 9. 聴音テストと解答 (1) 10. 創作（作曲） (4)			現代音楽を通じ豊かな音楽の表象に親しむ B1:1 音感を養う B1:1 作曲も簡単なものならば、少しの知識と、音で「遊べ」ば出来るものだということを知る B1:2			
	11. ジャズ音楽 (1) 12. カノンを歌う (1) 13. ロシア民謡 (1) 14. 音楽療法 (1) 15. 小論文 (1) 16. 実技テスト (3)			さまざまな音楽の表現に親しむ A1:3 バロック音楽のバス定型の構造を理解する B1:1 豊かな音楽的教養に親しむ A1:3 音楽療法の歴史や、音楽と精神との関係などを学ぶ A1:3			
評価方法	授業態度，試験，実技点を総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術科目						
教 材							
備 考	特になし						

科目名	美術			担当教員	永井 崇幸		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220026	単位区別	履修
学習目標	構想画、デザイン画、あらゆる表現方法による絵画表現を通して、個々の創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。イメージを膨らませて、自主的に創造する価値と喜びを感じさせる。						
進め方	絵画表現を通して、独自のイメージを膨らませ、自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 構想画 ー理想都市を描く 着彩 (10)			・テーマに沿ったイメージは、どのようにして引き出すことが出来るかを考える。 E6:1 ・CGの発達により、意識のないままに仮想現実（バーチャルリアリティ）があふれていることを認識する。それらのイメージを再構成して、独自のイメージとして表現することが出来る。 B2:1 ・幾つかの制作条件のもとで、理想の都市空間を豊かなイメージを膨らませて表現することが出来る。 E6:1 ・直線・曲線を使い分けて建造物と都市空間を表現することが出来る。 B2:1			
	2. デザインと描写 ー定められた空間の構成 着彩 (7)			・自分でデザインする外形を決定する。 E6:1 ・指定された条件下で定型の形を生かして表現することが出来る。 E6:1			
	3. デザインと描写 ー定められた空間の構成 着彩 (3)			・デザイン的な色面構成の中に精密な描写をすることが出来る。 E6:1 ・制作に必要な資料を準備し、テーマに沿った表現が出来る。 E6:1			
	4. 自由制作 着彩 (10)			・あらゆる絵画表現手段を用いて作品制作する。 B2:1 ・自分の定めたテーマを感性豊かに表現することが出来る。 B2:1			
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	美術Ⅰを履修している。						
関連科目	芸術Ⅰ（美術）（1年） → 芸術Ⅱ（美術）（2年）						
教材	スケッチブックと絵の具（アクリルガッシュ）を購入。（2年間使用）						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け付け、評価の対象にします。 学習・教育目標との関係：(A)「社会と文化に理解を深め、他人の物の見方や考え方を知る。」 (B) 自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						

科 目 名	書道			担当教員	寺坂文和		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220027	単位区別	履修
学習目標	これまでの学習内容と関連づけながら、表現と鑑賞の能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、書の美への探求がより充実、深化したものとなるようにする。						
進 め 方	・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・多様な書の美への関心と鑑賞の必要性を理解させ、美を追求する姿勢を確立させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 書の美を求めて (1)	(1)		書が求める美とは何かを考える	A3:1		
	2. 篆書の学習 (1)	(1)					
	さまざまな篆書						
	3. 石鼓文の鑑賞と臨書	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する	A3:1		
	4. 金文の鑑賞と臨書	(2)		それぞれの特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする	A3:2		

	5. 隷書の学習 さまざまな隷書	(1)		特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする	A3:2		
	6. 隷書の特徴	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する	A3:2		
	7. 曹全碑の鑑賞と臨書	(2)					
	8. 行草書の学習 (4)	(4)					
	風信帖の鑑賞と臨書						
9. 行書の創作	(3)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。	B2:1			
10. 楷書の学習 整齊の美と均衡の美	(3)						
11. 仮名の書の学習 種類、特徴	(2)						

12. 漢字仮名交じりの書の学習	(1)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。	B2:1			
13. 書体の趣を生かした表現の工夫	(2)						
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
16. 全体構成の工夫	(2)						
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教 材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅱ」 教育出版						
備 考							

科目名	キャリア概論 Career Support			担当教員	担任		
学 年	1,2,3 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義, 実習	科目番号	11220036	単位区別	履修
学習目標	キャリアアップにつなげるための基礎的な学習・体験を通じて、社会性・人間性を育てると共に、将来の進路設計の具体化ならびに職業観・勤労観を養い育てる。						
進め方	1 学年から 3 学年の各学年において、年間 10 単位時間を当て、キャリア発達支援に関する講義・実習などの授業を受ける。年度初めに実施する項目を提示する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 1. 高専 1 年生の心構え 2. 高専生の進路 3. ビジメスマナーとは、挨拶の大切さとは 4. 身だしなみの基本とは 5. 社会人としての言葉づかいとは、よく使う敬語 6. 学生と社会人(職業人)の違いとは 7. 働くとは(働く意味を考え直そう) 8. 仕事とは 9. コミュニケーションとは 10. 非言語コミュニケーションとは			自己とは何かを考えることができる。 E6:1 高専生活への適応を図ることができる。 E1:1 自然、人間、社会に触れることができる。 自らの進路決定の準備（1） 高専生の進路について知っている。 D3:1 働くことの意味とすばらしさを考えることができる。 A1:1, A2:2 企業が求める人材は、知的能力、EQ の高い人、コンピテンシーの高い人であることを知っている。 D3:1			
	2 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 11. 人間関係の基本とは 12. 自分を知る、相手を知るとは 13. チームワークとは 14. 効果的なコミュニケーションとは 15. 科学的仕事とは 16. 時間管理の基本スキルとは 17. コミュニケーションの方法とは 18. ファイリングの仕事とは 19. リーダーシップとは 20. リーダーシップとフォロアーシップとは			自立心を育てることができる。 E6:2 自分と他人との関係を考えることができる。 F3:2 自然、人間、社会について考えることができる。 自らの進路決定の準備（2） 高専生の進路について具体的に理解できる。 E1:2 技術者として働くことの意味を考えることができる。 A1:1-2 知的能力、EQ、コンピテンシーについて理解できている。 D3:1			
	3 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 21. 正解のない社会とは 22. 組織とは 23. 企業とは 24. 企業の目的とは 25. 利益追求活動とコストとは 26. 企業の社会的責任（CSR）とは 27. 職業倫理とは 28. 新入社員の役割とは 29. 自己啓発のすすめとは 30. 高学年に向けての心構え			自己を見つめることができる。 E6:3 社会と自分との関わりを自覚することができる。 F3:3 現代社会の様々な問題に目を向けることができる。 自らの進路決定の準備（3） 自分の進路を考えることができる。 E1:3 技術者として働くことの意義を考えることができる。 A1:1-2, A2:2 知的能力、感情能力、コンピテンシーを高める努力をすることができる。 E6:1			
評価方法	・評価は可否とし、100 点法では評価しない。出席状況、レポート提出状況をみて総合的に判定する。 ・1 学年から 3 学年までの 3 年間における全てのレポートが提出なされていない場合は、不合格とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	特別活動（ホームルーム）						
教 材	教科書：「高等専門学校生のキャリアプラン」 三好章一，渡部章，渡部博子共著 実業之日本社発行						
備 考							